

B-89 植物染料染色に関する研究 (第3報) 合成繊維に対する染色性について

岐阜大 大道寺純子

1. 古くから用いられてきた植物染料が新しい合成繊維に対して、どのような染色性を有するかを究明し、かつ洗たくと耐光堅牢度を検討する目的で本研究を行なった。

2. 茜, 刈安, 山桃など10種の染料植物の浸出液で, ナイロン6, ビニロン, アセテート, カシミロン, テトロンおよび絹布を用いて浴比1:50, $80 \pm 2^\circ\text{C}$ にて30分染色し, 水洗乾燥した。さらに媒染効果を求めるため, 染色布の一部は硫酸第一鉄, 硫酸銅, 重クロム酸カリ, カリ明ばんなどの5%溶液にて, 浴比1:50, 常温にて20分媒染した。染色布は日立光電反射計 (SPR-2形) により反射率を測定した。なお洗たくおよび耐光堅牢度についてはJISに大体準じて試験した。

3. ナイロン6, ビニロンは絹布と同様にかなりよく染色された。合成染料でも難染とされているテトロン,

カシミロンは植物染料の場合も染着性はきわめて低く淡色にししか染まらぬものが大部分であった。洗たく堅ろう度は良好で一般に退色するものは少なく各繊維と染料はかなり強く結合しているものと思われるが、これに反し耐光堅牢度は概して低く、結合した色素の安定性はわるく、空気中での酸化分解などにより容易に破壊され易いものであることが推察される。